

農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

タイトル 農家組合員の情報収集に伴うグリップ強化の取組

JA名 たいせつ（北海道）

1 動機 (経緯)	<p>昨今、農業部門に対する融資等の参入を図る他行の攻勢が激化している状況にある中、当JAでは組合員へのサービス内容向上及び更なるグリップ強化等により、組合員の利便性はもとより、収益確保を図るべく本取組を行うこととなりました。</p>
2 概要	<p>(1) 営農推進課との連携 金融部門と営農部門による一体的な推進活動を展開し、投資等の需資確認、融資対応に結び付けています。併せて、各部署で得た情報を共有するツールを用い、ニーズに即したきめ細かい顧客対応を実践しています。</p> <p>(2) JAメカニックセンター及びクレジット非対応農機具メーカーとの連携 農機具修繕等でメカニックセンターを訪れた組合員の情報を共有し、耐用年数超過の農機具に対し、更新投資要否の確認及び資金案内を適宜行っています。また、クレジット対応を行っていない農機具メーカー等との関係強化により、組合員の投資情報を確認し、JAは融資対応を行い、メーカー側は円滑な代金回収と、双方にメリットを得ている状況にあります。</p> <p>(3) パンフレット・チラシを活用した資金メニューの紹介 地区懇談会等、組合員が集まる場において、資金メニューを紹介し、融資相談をし易い環境作りに配慮しています。</p>
3 成果 (効果)	<p>(1) 過去6年間、農業融資残高及び件数は概ね右肩上がりであり、組合員の相談件数も増加しています。過去3ケ年で着目すると、2年前及び前年は稲作部門が好調であったことを受け、資金繰りに余裕が生じ繰上償還が進んだ中で、一定の残高及び件数の増加を確保するに至っています。</p> <p>(2) 財務面等における組合員指導の一環として、緊急時に備え貯金を潤沢にする様、計画的な借入の推奨を行うことに加え、コンバイン・トラクター等の大型投資を分散させる等指導をしてきた経過もあり、借入金償還圧平準化にも寄与しています。</p>
4 今後の 予定 (課題)	<p>情報共有ツールについては、着手してから日が浅く、定着化が当面の課題です。今後、情報共有ツールの参照範囲を拡大し、関係部署が情報入力並びに閲覧を適宜行える様カスタマイズを加えていく予定です。情報共有部署の拡大により、組合員からの様々なニーズを細部に亙り把握し、得られた情報からの資金需資の掘り起こし、融資セールスに伴う訪問活動を活性化させていく意向です。</p>